

1 平成29年度の経営改善の取組状況について

1) 平成29年度決算について

第3次経営改善計画の3年目である平成29年度は、患者数は計画値よりも入院で108人上回りましたが、外来では8,723人下回りました。

収益については、合計では計画値より108,566千円下回りました。内訳としては、入院収益が計画値より3,418千円、外来収益が計画値より10,304千円上回りましたが、主に健診件数が減ったため、その他医業収益が計画値より58,160千円下回りました。医業外収益は、主に一般会計からの繰入金計画を下回ったため、64,143千円下回りました。

費用については、合計では計画値より143,619千円上回りました。内訳としては、医業費用は、主に給与費、経費が見込みを上回り、計画値より156,803千円上回りました。医業外費用は、保育所運営費及び雑損失（消費税損税）が見込みを下回ったため、計画値より19,451千円下回りました。この結果、計画では235,795千円の純利益を見込んでいましたが、決算としては、16,391千円の純損失を生じました。

（※詳細は「3 経営改善計画に対する平成29年度決算の状況」3ページを参照）

2) 平成29年度的主要な取組

(1) 医師の確保

岩手医科大学をはじめ関係機関との情報交換や連携、医師の紹介業者の活用等により、医師確保に努め、常勤医師3人（消化器内科2人、呼吸器内科1人）を確保しました。

(2) 臨床研修医受け入れに向けた取組

平成31年度から臨床研修医の受け入れを開始するため、平成30年3月13日に基幹型臨床研修病院の指定を受けました。

(3) 医療機能の充実

平成29年4月から、消化器・栄養センターを開設し、消化器内科・外科の連携を強化するとともに、栄養士等を含めた院内の多職種のスタッフによるチーム医療を開始しました。

(4) 地域包括ケア病棟の積極的活用

高度急性期病院からの急性期後の患者や、地域の開業医からの紹介患者の在宅復帰支援を行う地域包括ケア病棟を積極的に活用することにより、「地域の医療は地域で守る」という地域包括ケアシステムに貢献し、在宅医療体制推進へ協力しました。

(5) 他の医療機関等との連携強化

市内の開業医や介護施設等約530施設に対し、地域医療連携だより（年4回発行）を送付するとともに、開業医の訪問（14回42箇所）や介護施設職員との情報交換会を行うなど、連携の強化に努めました。

また、診療案内（7月に発行）を送付し、当院の診療内容や医師の専門性等の情報を提供するとともに、紹介率の向上に努めました。

(6) 健診の充実

疾病の予防や早期発見・早期治療のための各種健診事業を実施しました。市の成人検診においては、受診者数は延べ6,437人となりました。

また、胃がん検診については経鼻内視鏡を増やし、X線検査と内視鏡検査の選択制に対応しました。

(7) 高度医療機器等の活用

C T、MR I の積極的な活用を継続し、高速な検査、高精細な画像の提供による医療の高度化、検査単価の向上を図りました。また、地域の医療機関に対し、当該装置の活用による検査紹介のPRに努めました。撮影件数は前年度に比べC T装置が19.5%増の4,994件、MR I装置が1.0%減の3,276件となりました。

(8) 経営評価委員会による経営改善計画の点検・評価

医療に関する有識者等で構成した経営評価委員会を平成29年11月に開催し、経営改善計画の進行状況等について点検・評価を行いました。

(9) その他の取組

- ① 広報、ホームページの活用による医療情報等の積極的提供
- ② 外部コンサルタント等の活用
- ③ 「市立病院デー」の開催
- ④ 出前講座等地域研修会への講師派遣
- ⑤ 接遇向上委員会を中心とした職員の接遇意識の向上
- ⑥ クリニカルパス委員会によるパス大会の開催とパス適用率向上の取組
- ⑦ がん患者・家族支援チームの積極的な活動
- ⑧ N S T等チーム医療の積極的な活動